

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Chocolate consumption and risk of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

チョコレート摂取と妊娠糖尿病の発症との関連について

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: British Journal of Nutrition

年: 2019 月: 10 巻: 122 頁: 936-941

筆頭著者名: 董加毅

所属UC名: 大阪UC

目的:

本研究はチョコレートの摂取と妊娠糖尿病の発症との関連について検討すること。

方法:

エコチル調査全国に参加者(母親)を対象に、妊娠初期のアンケートからチョコレートの摂取量によって4つのグループに分け、摂取量が最も少ないグループと比べて、その他のグループの妊娠糖尿病の発症リスクを調べた。年齢、喫煙、飲酒、学歴、職業、妊娠前の体格指数、うつ病、巨大児の既往歴、出産経歴、身体活動、食事などを交絡因子とした。

結果:

チョコレート摂取量の最も少ないグループ(0g/週)と比べて、摂取量の最も高いグループ(87.5 g/週)では、妊娠糖尿病リスクが有意に低下した(オッズ比= 0.78、95%信頼区間: 0.67-0.90;傾向のP = 0.002)。

考察:(研究の限界を含める)

チョコレートに含まれるポリフェノールによってインスリン抵抗性が改善される可能性がある。本研究は観察研究のため、未観測交絡変数、測定誤差の影響は排除できない。99.4%の参加者において、チョコレート摂取頻度が1日1回(25g/回)以下であるため、本研究の結果は1日1回範囲の中で適用されなければならない。また、チョコレートには、糖分と脂肪が多く、食べ過ぎには要注意である。

結論:

チョコレートの摂取が妊娠糖尿病の発症リスクを下げる可能性が示唆される。